

巻頭言

病院事業管理者 遠藤 一 靖

仙台市立病院医学雑誌第34巻が刊行され、皆様にご覧いただけることになりました。

今年度は14編が掲載されています。原著2編、症例報告8編、院内活動報告1編、コメディカルレポート3編です。これら論文は、多忙な日常業務の合間に時間をやりくりして行われた汗の結晶です。各著者の学術的取り組みに敬意を表します。

まず、医学雑誌の発表の形式について取り上げたいと思います。本誌第34巻から、冊子体の雑誌形式からPDF化し電子ジャーナル化にいたしました。この移行については冊子体への思い入れなど院内でも種々議論がありましたが、電子ジャーナル化することにより、論文でカラー写真が活用しやすくなることや、論文発表の速報性や即時性など多くの点で冊子体より優れており、利用者にとっても利便性が格段に増すこと、そしてその結果本誌がより広く閲覧される機会が増えるなど、多くの有意性が挙げられました。さらに、電子ジャーナルがますます普及していくのが時代の趨勢であり、これからを見据えてこのような判断に至りました。当誌はメテオインターゲートの運営する国内医学関連雑誌のフルテキストを提供するサイトに掲載されています。また、仙台市立病院のホームページからも閲覧が可能です。「医療機関の皆様へ」を開いていただくと、「学術活動」の項目に第30巻（2010年）から最新のものまでPDFでご覧いただくことができます。近日中に創刊号からすべて掲載する予定となっています。

もう一つ、新病院への移転開院事業について取り上げたいと思います。平成24年12月から仙台市あすと長町地区で開始した新病院建設工事が7月15日に完成しました。所在地は〒982-8502 仙台市太白区あすと長町一丁目1番1号です。延べ面積は、病院本館52,286 m²、厚生棟1,364 m²、研修医宿舎棟2,150 m²で、高さは55.17 m、地下1階、地上11階建てとなっています。大変立派な病院ができました。新幹線からもその威容が望めます。因みに、建設工事費は175億7,300万。震災後の資材高騰などで当初契約額より17億6,800万円増加しました。平成26年11月1日の移転・開院に向けての準備作業を進めています。今は、1) 医療機器や備品・什器の設置・移設、2) 電子カルテ等医療情報システムの設置・動作確認、3) 医療スタッフの総合リハーサル、4) 患者搬送リハーサル、5) 電子カルテ研修会、6) 新病院基本運営マニュアル作成、など鋭意おこなっているところです。

11月1日以降は新病院で、心臓血管外科、形成外科が新設され、設備、医療機器が格段に充実した医療環境の中で診療が行われます。この機会を生かし、新病院の診療内容を向上させることは勿論ですが、仙台市立病院医学雑誌が電子ジャーナル化したことでもありますので、その診療の成果を本医学雑誌から全国に発信していただき、さらなる充実を図っていただきたいと思います。そのためには、研修医から常勤医師までの臨床研究やコメディカルスタッフの業務に関する報告など多くの投稿をお願いします。

本誌が仙台市立病院の医療の質の向上、医療人としての専門知識、技術の研鑽に大いに寄与するように育ってほしいと願っています。

最後に、本誌の刊行に携われた編集委員会の長沼委員長、各委員に深謝いたします。